新　聞　2025年（令和7年）12月26日（金曜日）第47683号【日刊】

北國新聞

2025年（令和7年）
12月26日（金）

発行所
北國新聞社
〒920-8588
金沢市南町2番1号
番号案内(076)263-2111
富山本社　番号案内(076)491-8111
〒930-8520 富山市大手町5番1号
©北國新聞社　2025年
https://www.hokkoku.co.jp/

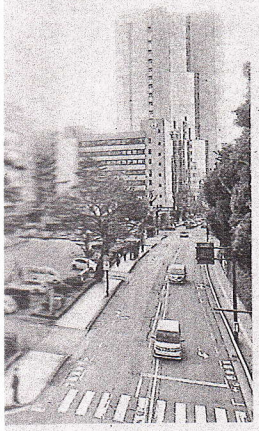
県市連携で国と協議

馳知事「まちの品格保つ」

同庁舎の移転

金沢国税局などが入る国の金沢広坂合同庁舎（金沢市広坂2丁目）について、石川県の馳浩知事は25日、金沢市と連携し、移転を含めた協議を国と進める方針を示した。施設は老朽化が顕著で、周辺の景観保持、まちづくりの観点から「緑地にしてはどうか」との指摘が上がっている。年末あいさつで北國新聞社を訪れ、飛田秀一名誉会長と懇談した馳氏は「まちの品格を保つという意味で、県市連携で取り組んでいかなければならない課題だ」と強調した。

【2面に関連記事】



化

意欲

風致地区で建て替え困難

現庁舎は1965（昭和40）年に建設された。高さは約30㍍あるものの、現在地は高さ15㍍以下の建物しか新築できない風致地区に当たるため、同規模での建て替えは難しいとされる。

県と金沢市は2023年3月、北陸財務局などに対し庁舎を改築する場合は移転を検討するよう要望。財務局側は跡地利用計画と移転を含めた協議を国と進める方針を示した。

金沢中心部に「文

村山市長 年末あいさ

金沢市の村山卓市長は25日、年末あいさつで北國新聞社を訪れ、飛田秀一名誉会長と懇談した。村山氏は市中心部に「文化の拠点」を構築することに意欲を示し、「芸術だけでなくスポーツ分野も視野に入れ、さまざまな関係者と協議を重ねたい」と述べた。来年3月1日告示、同8日投開票の市長選に向け、自身の公

い建物がイメージを損ないかねない状況にあると指摘した。

合同庁舎を巡っては、かねて駅西地区への移転を求める声が出ていた一方、国は2010年に耐震改修を終え、議論は一時棚上げされていた。

ただ、金沢経済同友会は

あずきさわ内科クリニック
院長　小豆澤 定秀
金沢市畝田西3丁目62-1（観音堂バス停より近く）
TEL266-2280

社説
社会
北陸総合
石川北
北陸
長
テル

読者サービスセンター 076(260)8000
dokusha@hokkoku.co.jp
（土日、祝日除く。後援申し込みは4週間前まで）
◇広告の相談
地域ビジネス部 076(260)3571
◇文化センターの入会 076(260)3535
◇購読の申し込み、相談
読者相談室 076(260)3564
◇折り込みの申し込み
北國オリコミ 076(278)7781
◇催しの問い合わせ
事業部 076(260)3581
◇出版関係問い合わせ
出版部 076(260)3587
北國新聞デジタル ▶▶▶

米の収量確保と品質向上を徹底

県内JAなど推進本部

石川県内の各JAや県などで構成する「うまい・きれい石川米づくり＋1運動」推進本部委員会は25日、県農業会館で開かれ、高温下での収量確保と品質向上、能登半島地震と奥能登豪雨で被災した農地の復旧に取り組むことなどを申し合わせた。

来年産の目標として、1等米比率は90%以上、10アール当たりの収量はコシヒカリで480～560キロ、ゆめみづほで600キロ以上、ひゃくまん穀で700キロとした。生産者に対する重点推進事項として、刈り取り後の土づくりや育苗日数、田植え後の中干しなど六つの対策と、10の推進技術を設定。能登の農地には災害復旧状況に応じた作付け拡大と栽培支援の推進を盛り込んだ。

膵臓がんの新治療開発

金大と東大 老化したがん細胞狙う

金大と東大の共同研究グループは25日までに、膵臓がんの新しい治療法を開発した。保険適用となっている二つの薬を使い、がん細胞を老化させて狙い撃ちする。マウスを使った実験で効果が現れており、人間への臨床治験を目指す。

ほぼ全ての膵臓がんは、「KRAS（ケーラス）」という遺伝子の変異が引き金となって発症する。この遺伝子変異にはさまざまなパターンがあるが、現在、臨床の現場で使われている薬は一つのパターンにしか効果がない。この薬の効果は従来の化学療法と比べて大差がなく、薬剤耐性が現れることもあるという課題があった。

今回の研究では、KRASの変異を持つ膵臓がんに、進行した乳がん治療に使われている薬と、大腸がん治療でよく使われる薬を合わせて投与。マウス実験では、乳がんの薬が膵臓がん細胞を老化させ、大腸がんの薬が老化した細胞を殺すことを確認。正常な細胞では老化が起こらないことも分かった。

研究には、金大がん進展制御研究所の高橋智聡教授、大学院生（博士課程）の張園園さん、河野晋助教らが参加した。研究成果は18日の英学術誌のオンライン版に掲載された。

産後うつ科学的判断の可能性

金大の研究グループ

金大医薬保健研究域保健学系の南香奈助教らの研究グループは25日、健康な母親と産後うつ傾向にある母親が乳児と触れ合った際、母性行動を促すホルモン「オキシトシン」の増加量に差があることが分かったと発表した。これまで質問票で判定していた産後うつを科学的に判断できるようになる可能性がある。

産後うつは産後の母親の1、2割で発症するとされており、これまでは質問票で9点以上の母親を産後うつと判定していた。グループでは9点未満の母親に乳児と触れ合ってもらい、オキシトシンの増加量を測定。ほとんど上昇していなかった母親に質問票を記入してもらうと、いずれも5点以上でオキシトシンが上昇していた母親より高かった。

研究成果は17日、国際学術誌のオンライン版に掲載された。

化学物質の影響研究者が発表

金大でシンポ

金大環日本海域環境研究センターのJ―PEAKS連携シンポジウム「大気・陸域・海洋環境の広域連携による学際研究への展開」は25日、同大自然科学系図書館で開かれ、国内7大学の研究者が環境中の化学物質が生態系に与える影響などについて発表した。

日本海、沿岸部、地球環境と健康の関係を探る「プラネタリーヘルス」の3部に分かれ、研究者12人が登壇した。長尾誠也センター長はセンターが取り組む化学汚染物質の影響評価について説明した。

山岸GKコーチ退任

ツエーゲン

サッカーJ3・ツエーゲン金沢は25日、トップチームGKコーチの山岸範之氏（53）の退任と、J2・ヴァンフォーレ甲府のトップチームGKコーチ就任を発表した。甲府では2019～21年にGKコーチを務めた経緯がある。山岸氏は「J2復帰を果たせなかったことが心残りだが、ツエーゲンはまだまだ発展できると確信している。最終戦のスタジアムの雰囲気は忘れない」とコメントした。

拡大

来月から 3年契約月額6030円

金沢ケーブルは来年1月1日から、超高速インターネットサービス「ケーブル光10ギガ」の割引を拡大する。3年契約で月額7630円（税込み）か

2学期が終わるころ、子どもたちにクリスマスプレゼン

3段階評価といかないのが選挙である。金沢市長選は来